

マルチプロトコル・スイッチ・サービス
(MSS) サーバー・モジュール



導入と初期構成の手引き

マルチプロトコル・スイッチ・サービス
(MSS) サーバー・モジュール



導入と初期構成の手引き

お願い

本書および本書がサポートしている製品をご使用になる前に、付録B. 特記事項と商標を必ずお読みください

第 4 版 (1999 年 3 月)

この版は、MSS サーバー・モジュールのバージョン 2.2 に適用されます。

本マニュアルについてご意見やご感想がありましたら

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.infocr.co.jp/ifc/books/>

をご覧ください。（URL は、変更になる場合があります）

原 典： GA27-4141-03
Multiprotocol Switched Services (MSS)
Server Module
Installation and Initial Configuration Guide

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 1999. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 1999

目次

図	v
本書について	vii
本書の対象読者	vii
作業の進め方	vii
MSS サーバー・モジュール ライブラリー概説	viii
MSS サーバー ソフトコピー・ライブラリーへのアクセス方法	ix
Web サイトへのアクセス方法	ix
情報更新および訂正	x
オンライン・サポート	x
変更の要約	x
第1章 MSS サーバー・モジュールの導入	1
作業を始める前に	1
A-CPSW コード・レベルおよびスロットの制約事項	1
第2章 問題解決	7
第3章 MSS サーバー・モジュールへのアクセス方法	9
接続方法	9
TTY 接続	9
ローカルおよびリモート・コンソール・アクセス	11
シリアル・ポートについてのデフォルト設定	11
PCMCIA モデム についてのデフォルト設定	11
SLIP 接続	12
イーサネット接続	12
ATM ネットワーク接続	13
第4章 MSS サーバー・モジュールの初期構成の実行	15
デフォルト構成を使用する時期	15
デフォルト構成のパラメーター	15
初期構成の実行時期	18
初期 (クイック) 構成の実行	19
全機能構成	21
付録A. 共通作業	23
コマンド行インターフェース	23
アクティブなハードウェア・インターフェースのリストの表示	23
インターフェースの作動状態の表示	23
接続の検査	23
重要ソフトウェア・データの表示	24
重要ハードウェア・データの表示	24
クイック構成の実行	24
ATM ポートの使用不可	24
ATM ポートの使用可能化	25
ATM ポートを使用不可にしてトラフィックを中断	25
ATM ポートを使用可能にしてトラフィックを再開	25
最新の MSS サーバー情報	26
付録B. 特記事項と商標	27

本書のオンライン・バージョンのご使用条件	27
情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示	27
商標	28
付録C. 安全に関する注意事項	29
安全上の注意.	29
LED およびレーザーのステートメント	29
クラス 1 LED ステートメント	29
クラス 1 レーザー・ステートメント	29
リチウム電池ステートメント	29
索引	31



1.	EIA-232 ポートへのローカル・シリアル接続	10
2.	EIA-232 ポートへのリモート・シリアル接続	10
3.	PCMCIA モデム (音声/データ/FAX PCMCIA モデムまたはデータ/FAX PCMCIA モデム) へのリモート・シリアル接続	11
4.	イーサネット・ポートを介し、IP を使用する接続	13
5.	ATM ネットワークを介して IP を使用する接続 (8210-003 付きで示されて います)	13

本書について

本書は、MSS サーバー・モジュールのセットアップ、初期構成の実施、ならびに取り付け中に発生する可能性のある問題の識別と修正方法について説明します

MSS サーバー・モジュールには 2 つのタイプがあります。

- IBM MSS 3.0 サーバー・モジュール (A-MSS 3.0 サーバー・モジュール)。これは、IBM MSS 2.5 サーバー・モジュール (A-MSS 2.5 サーバー・モジュール) に取って代わります。
- IBM MSS サーバー・モジュール (A-MSS サーバー・モジュール)

A-MSS 3.0 サーバー・モジュールは、モジュールとして IBM 8265 Nways ATM スイッチ (8265) 内に取り付けることができます。A-MSS サーバー・モジュールは、モジュールとして 8265 (いくつかの制約あり) または IBM 8260 Nways マルチプロトコル・スイッチング・ハブ (8260) 内に取り付けることができます。特に明記されていない限り、用語 *MSS* サーバー・モジュール は、A-MSS 3.0 サーバー・モジュールと A-MSS サーバー・モジュールの両方に適用されます。

本書の対象読者

本書は、MSS サーバー・モジュール の導入を担当する方を対象としています。この担当者は設置図およびケーブル配線図に精通していらっしゃるものと想定しています。

作業の進め方

以下のステップは MSS サーバー・モジュール の導入方法を説明しています。MSS サーバー・モジュールを取り付け、接続し、構成するために必要になるネットワーク情報をすべて文書化する必要があります

導入

1. MSS サーバー・モジュールを導入します。第1章 MSS サーバー・モジュールの導入で、ハードウェアの導入手順について説明しています。別の方法として、IBM サービス要員による導入をご利用いただけます。詳細については IBM 担当者に問い合わせてください。
2. ネットワーク管理者に連絡して、デフォルト構成を使用することができるかどうか、あるいは初期構成を実行する必要があるかどうかを判別します。ネットワーク管理者がデフォルト構成を使用することを希望している場合は (15ページの『デフォルト構成を使用する時期』を参照) 、導入および初期構成の作業は完了しています。そうでない場合は、初期構成を実行する必要があります。

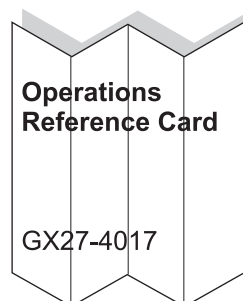
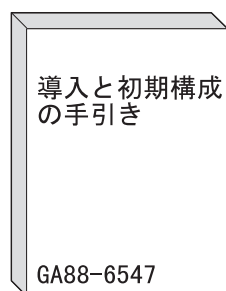
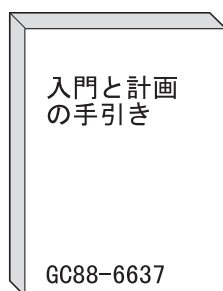
初期構成

1. 第3章 MSS サーバー・モジュールへのアクセス方法 に説明されているように MSS サーバー・モジュールにアクセスします。
2. 第4章 MSS サーバー・モジュールの初期構成の実行 に説明されているようにして初期構成を実行します。

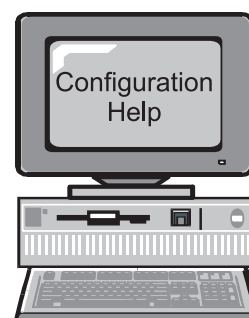
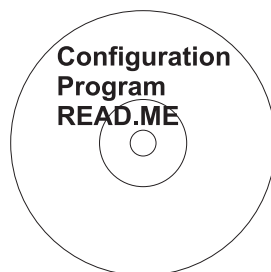
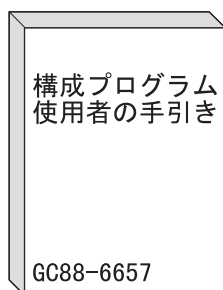
3. 全機能構成を実行する場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。また、MSS サーバー・モジュールに付属のソフトコピーで提供される MSS サーバー インターフェース構成とソフトウェア使用者の手引き および MSS プロトコルとフィーチャーの構成 を参照してください。

MSS サーバー・モジュール ライブラリー概説

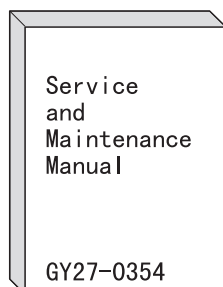
計画と導入



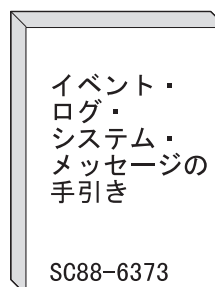
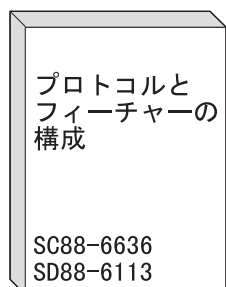
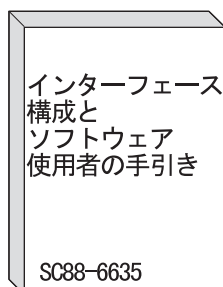
構成



診断/保守



運用とネットワーク



以下の IBM ハードコピー資料 (英語版のみ) が製品とともに出荷されます。このリストにある資料は、表示可能なソフトコピーの形式で MSS ソフトコピー・ライブラリー CD-ROM (LK2T-0378) に収められています。この CD-ROM は MSS サーバー・モジュールの初期受注品目と共に出荷されます

リファレンス・カードおよび安全情報のブックレットは、ハードコピーでのみ出荷され、CD-ROM には収められていません。

- *MSS Server Module Installation and Initial Configuration Guide*, GA27-4141
- *MSS Server Module Quick Reference Card*, GX27-4018
- *Caution: Safety Information - Read This First*, SD21-0030

以下の資料 (英語版のみ) はハードコピーで出荷されるのではなく、ソフトコピーの形式で MSS CD-ROM で提供されます。これらの資料はすべて (イベント・ログ・システム・メッセージの手引きを除く) IBM 営業担当員を通じて別途にオーダーしていただければ、日本語版 (可能な場合) をハードコピーで提供できます。

- *MSS Server Introduction and Planning Guide*, GC30-3820
- *MSS Server Service and Maintenance Manual*, GY27-0354
- *MSS Server Interface Configuration and Software User's Guide*, SC30-3818
- *MSS Protocol Configuration and Monitoring Reference, Volume 1*, SC30-3819
- *MSS Protocol Configuration and Monitoring Reference, Volume 2*, SC30-3994
- *Configuration Program User's Guide for Nways Multiprotocol Access, Routing and Switched Services*, GC30-3830
- *Event Logging System Messages Guide*, SC30-3682

MSS サーバー ソフトコピー・ライブラリーへのアクセス方法

重要: ソフトコピーの MSS サーバー・モジュール資料を CD-ROM から直接読むか、それとも個別のブックをハード・ディスクにコピーするか選択する場合でも、最初に Library Reader プログラム (CD-ROM に入っています) をワークステーションに導入して、資料を見ることができるようになる必要があります。あるいは、Web ブラウザーを使用して PDF ファイルを見ることができます。

MSS Server Configuration Program and Documentation ブックレット (CD-ROM に収められています) では、Library Reader の導入方法と、DOS、Windows、または OS/2 を実行するパーソナル・コンピューターまたは PS/2 コンピューターからソフトコピー資料にアクセスする方法を説明しています。

詳細については、CD-ROM に収められている *Online Reference Library* を参照してください。

Web サイトへのアクセス方法

弊社の Web サイトにアクセスすることにより、MSS サーバー に関する最新情報およびサポートを入手することができます。

情報更新および訂正

資料が出版された後に実施される技術変更、説明、および修正についての情報を把握しておくためには、次のアドレスで IBM MSS サーバーのホーム・ページを参照してください。

<http://www.networking.ibm.com/820/820prod.html>

オンライン・サポート

技術上のアドバイスを含むサポート情報、現在の製品情報、および MSS サーバーについてのコード更新と修正を取得するには、以下のアドレスで IBM Networking Tech Support (IBM ネットワーキング技術サポート) のページを参照してください。

<http://www.networking.ibm.com/netsupt.html>

変更の要約

本書は、233-MHz の 740 PowerPC プロセッサを搭載した A-MSS 3.0 サーバー・モジュールを紹介するために改訂されました。

技術変更と追加が行なわれた箇所については、変更箇所の左側に縦線 (|) を付けて示してあります。

パッケージ・フィーチャーおよびその他のフィーチャーはすべて、前のリリースのものと同じです。

第1章 MSS サーバー・モジュールの導入

以下の手順では、MSS サーバー・モジュールを 8265 Nways ATM スイッチ (8265) または 8260 Nways マルチプロトコル・スイッチング・ハブ (8260) に導入する方法を説明しています。セットアップ中に問題が生じた場合は、第2章 問題解決 を参照してください。

作業を始める前に

MSS サーバー・モジュールには 2 つのタイプがあります。

- IBM MSS 3.0 サーバー・モジュール (A-MSS 3.0 サーバー・モジュール)。これは、IBM MSS 2.5 サーバー・モジュール (A-MSS 2.5 サーバー・モジュール) に取って代わります。
- IBM MSS サーバー・モジュール (A-MSS サーバー・モジュール)

A-MSS 3.0 サーバー・モジュール は、モジュールとして 8265内に設置することができます。A-MSS サーバー・モジュール は、8265 (いくつかの制約があります) または 8260内にモジュールとして設置することができます。特に明記されていない限り、用語 MSS サーバー・モジュールは、A-MSS 3.0 サーバー・モジュールおよび A-MSS サーバー・モジュールに適用されます。

重要: 本製品の導入に取りかかる前に、付録C. 安全に関する注意事項の安全情報をお読みください。

A-CPSW コード・レベルおよびスロットの制約事項

MSS サーバー・モジュールには、以下の最小 A-CPSW コード・レベル要件およびスロット制約事項があります。

注: 8265 がリリース 4 のモデルであるかどうか判別するには、8265 の前面の左下の隅を見てください。一番左の電源機構の左側にいくつかのラベルが付いています。上から 2 番目のラベルは、パーツ番号 (EC) のラベルです。リリース 4 のラベルには、ワード “Release 4” が記載されています。

表 1. A-CPSW コード・レベルおよびスロット制約事項

モジュール	最小 A-CPSW コード・レベル	プラグ可能スロット
リリース 4 の 8265		
CP/SW FC 6502		
A-MSS 3.0 サーバー・モジュール	V4.1	スロット 1 ~ 8 または 12 ~ 17
A-MSS 2.5 サーバー・モジュール	V4.0.0	スロット 1 ~ 8 または 12 ~ 17
A-MSS サーバー・モジュール	N/A	N/A
CP/SW FC 6501		
A-MSS 3.0 サーバー・モジュール	V4.1	スロット 1 ~ 8 または 12 ~ 17
A-MSS 2.5 サーバー・モジュール	V4.0.0	スロット 1 ~ 8 または 12 ~ 17
A-MSS サーバー・モジュール	V3.2.0	スロット 1、3、5、7

8265 (リリース 4 より前のもの)

表 1. A-CPSW コード・レベルおよびスロット制約事項 (続き)

モジュール	最小 A-CPSW コード・レベル	プラグ可能スロット
CP/SW FC 6502		
A-MSS 3.0 サーバー・モジュール	V4.1	スロット 1 ~ 8 または 13 ~ 17 (注を参照)
A-MSS 2.5 サーバー・モジュール	V4.0.0	スロット 1 ~ 8 または 13 ~ 17 (注を参照)
A-MSS サーバー・モジュール	N/A	N/A
CP/SW FC 6501		
A-MSS 3.0 サーバー・モジュール	V4.1	スロット 1 ~ 8 または 12 ~ 17
A-MSS 2.5 サーバー・モジュール	V4.0.0	スロット 1 ~ 8 または 12 ~ 17
A-MSS サーバー・モジュール	V3.2.0	スロット 1、3、5、7
8260		
A-MSS 3.0 サーバー・モジュール	N/A	N/A
A-MSS 2.5 サーバー・モジュール	N/A	N/A
A-MSS サーバー・モジュール	V2.5.2	スロット 1 ~ 8 または 12 ~ 17

注: この構成では、A-MSS 3.0 サーバー・モジュールまたは A-MSS 2.5 サーバー・モジュールでスロット 12 が使用できません。

1. 内容物を確認する

以下の品目が MSS サーバー・モジュール に含まれていることを確認してください。

ハードウェア

- PCMCIA モデムおよびケーブル
- PCMCIA 20-MB フラッシュ・ドライブ (オプション)

資料

パッケージには、本書のほかに、以下の資料が付属しているはずですが。

- *Caution: Safety Information--Read Me First*, SD21-0030
- *IBM MSS Server Module Reference Card*, GX27-4018
- *IBM MSS Configuration Program and Documentation*, LK2T-0378 (CD-ROM)

ソフトウェア

- 構成プログラム・パッケージ (CD-ROM で提供)
- MSS サーバー・モジュールをサポートするのに必要な最小 A-CPSW コード・レベルについての情報は、1ページの表1を参照してください。

2. 帯電防止袋からモジュールを慎重に取り出す

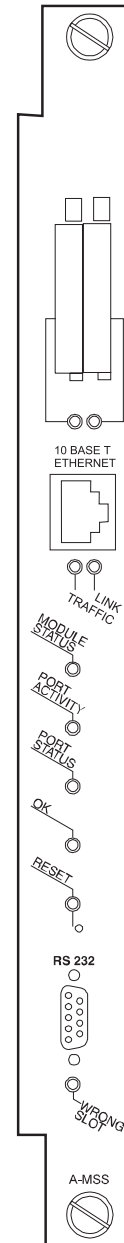
1. 出荷カートン内の帯電防止袋からモジュールを取り出します。

静電気の放電 (ESD) が回路ボード上の静電気に敏感な装置を損傷する可能性があります。この種の損傷を避けるため、以下の注意事項を守ってください。

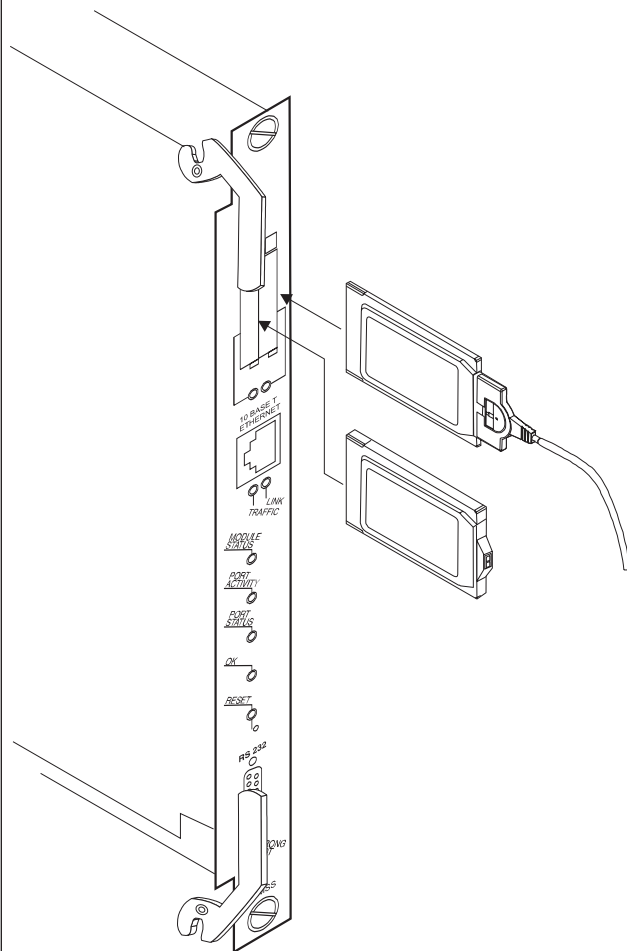
- ハブへの挿入準備ができるまでは、ボードを帯電防止シールディング袋から取り出さないでください。
- モジュールを検査したり取り付ける場合は、正しい接地技法を使用してください。フット・ストラップおよびアース・マットを使用するか、アースされた放電リスト・ストラップの着用するか、またはモジュールを取り扱う前に接地済みラックまたはその他の接地ソースに触れてください。

2. モジュールを帯電防止袋から取り出します。損傷の有無を検査します。常にフェイスプレートを持って取り扱うようにし、構成部品には触れないようにします。モジュールに損傷が見られる場合には、帯電防止袋に再び入れ、最寄りの販売店に連絡してください。

3. フロント・パネル



4. PCMCIA 装置を取り付ける

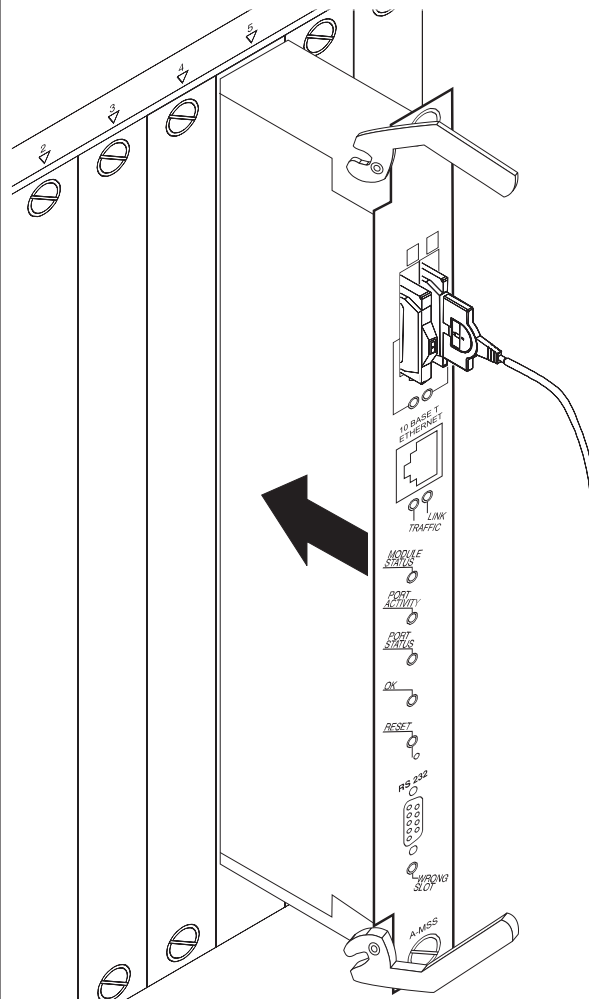


注: 以下の説明に基づく正しい取り付けは、電磁気干渉規制に基づいています (詳細については 27ページの『情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示』を参照)。

PCMCIA モデムを、上面を左にして右の PCMCIA スロットに取り付け、そのモデム・ケーブルを接続します。スロット内に正しく取り付けられていること、またケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

PCMCIA フラッシュ・ドライブを左の PCMCIA スロットに取り付けます。

5. モジュールをハブに挿入する



モジュールを取り付ける際に、ハブの電源を遮断する必要はありません。モジュールを他の 8265 または 8260 モジュールのようにホット・スワップすることができます。つまり、ハブが稼働している間に、モジュールを該当するスロットに挿入し、取り出すことができます。

モジュールをフェースプレートの上と下の部分で持ち、スロットに慎重に挿入し、均等に強く押しながらかまっすぐ滑らせ、ハブの後板にモジュールを正しく取り付けます。

完全に取り付けたら、ラッチを閉じ、ハブねじを締めてモジュールを固定します。

6. ATM バックプレーンを接続し、使用可能にする

8265 または 8260 が MSS サーバー・モジュールを認識するように、それを接続して、使用可能にする必要があります。以下のステップによって MSS サーバー・モジュール を接続し、使用可能にします。(コマンドおよび問題判別に関する詳細については、*ATM Control Point and Switch Module Installation and User's Guide, SA33-0326* を参照してください。)

A-CPSW コンソールにおいて:

1. 以下のコマンドを入力し、SNMP ネットワーク・インターフェースを設定します。

```
▶▶—SET COMMUNITY—name—ip_address—all—▶▶
                    |               |
                    |               +—— read_only——▶▶
                    |               +—— read_write——▶▶
                    |               +—— read_trap——▶▶
                    |               +—— trap——▶▶
                    +—— all——▶▶
```

ここで *name* はコミュニティの名前で、*ip_address* は管理ステーションの IP アドレスです。

2. 以下のコマンドを入力して ATM バックプレーンを接続します。

```
▶▶—SET MODULE—slot—CONNECTED—▶▶
```

ここで、*slot* は、モジュールが収められているスロットを識別しています。

3. 以下のコマンドを入力して ATM バックプレーンを使用可能にします。

```
▶▶—SET PORT—slot.1—ENABLE—UNI—▶▶
```

ここで、*slot* は、モジュールが収められているスロットを識別しています。

4. 以下のコマンドを入力してバックプレーン接続を保管します。

```
▶▶—SAVE MODULE_PORT—▶▶
```

5. バックプレーン接続を確認したい場合は、以下のコマンドを入力します。

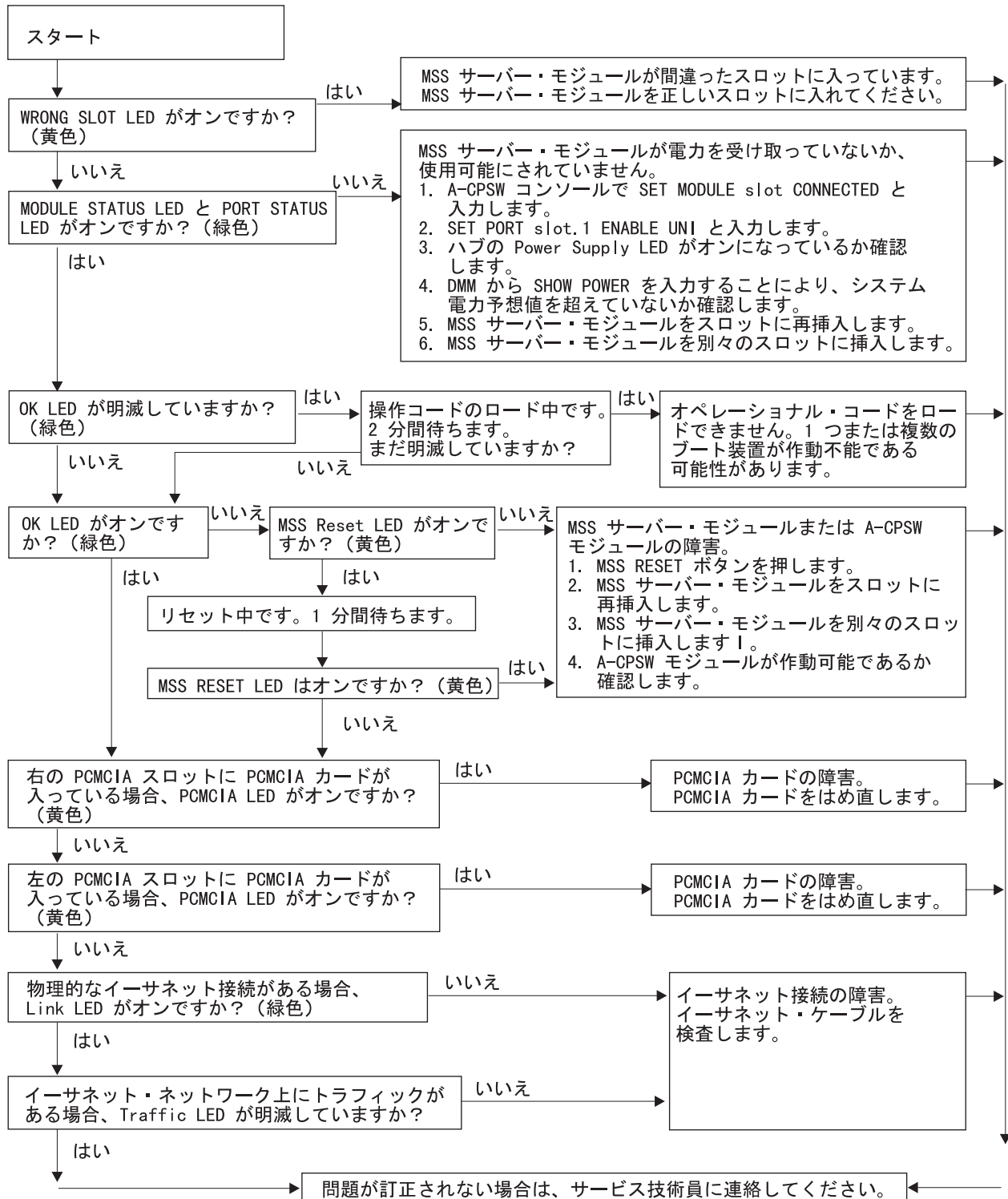
```
▶▶—SHOW MODULE—slot—VERBOSE—▶▶
```

ここで、*slot* は、モジュールが収められているスロットを識別しています。

<p>7. モジュールの LED を確認する</p> <p>リセットの数分後、以下の LED 状態を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> イーサネット・ネットワークを流れるトラフィックがある場合には、TRAFFIC LED はオン (緑色) となります。 イーサネット・ポートが接続されている場合は、LINK LED はオン (緑色) となります。 MODULE STATUS LED はオン (緑色) となります。 ポート上で活動がある場合には、PORT ACTIVITY LED はオンになります。MSS サーバー・モジュールへ流れるトラフィックがある場合は、PORT ACTIVITY LED はオン (黄色) となります PORT STATUS LED はオン (緑色) となります。 OK LED はオン (緑色) となります。 RESET LED はオフとなります。 WRONG SLOT LED はオフとなります。 <p>LED が記載されたようにオンにならない場合には、第2章 問題解決を参照してください。</p> <p>ハードウェアの取り付けは完了しました。</p>	<p>8. ネットワーク管理者に連絡します</p> <p>ネットワーク管理者に、モジュールを取り付けて、それが正しく作動していることを伝えます。その管理者に、モジュール内のモデムの電話番号を知らせます。</p> <p>取り付けした後、MSS サーバー・モジュールを構成しないと、完全に作動可能になりません。モジュールはデフォルト構成とともに出荷されますが、15ページの『デフォルト構成を使用する時期』で説明されているように、リモート側で構成することが可能です</p> <p>ほとんどの場合、ネットワーク管理者は (完全) 構成を行うときに、このデフォルト構成を使用しません。その代わりに、まず最初にローカル構成コンソールをセットアップ (第3章 MSS サーバー・モジュールへのアクセス方法を参照) してから、初期 (クイック) 構成を行います (第4章 MSS サーバー・モジュールの初期構成の実行を参照)。</p> <p>完了したらネットワーク管理者に連絡し、全機能構成が可能なことを伝えます。</p> <p>ハードウェアの取り付けと初期構成が完了しました。</p>
--	--

第2章 問題解決

セットアップ中に発生する問題の識別および修正に関しては、以下の図表を参照してください。



第3章 MSS サーバー・モジュールへのアクセス方法

この章では、MSS サーバー・モジュールのアクセスについてサポートされている方法を説明します

接続方法

MSS サーバー・モジュールに接続する方式には、次の 4 種類があります

- テレタイプ (TTY) 接続
- シリアル・ライン IP (SLIP) 接続
- イーサネット接続
- ATM ネットワーク

TTY、SLIP、およびイーサネットはアウト・オブ・バンド 接続と考えられます。アウト・オブ・バンド接続は、ATM ネットワークが作動可能でない場合、あるいは MSS サーバー・モジュールがまだ構成されていない場合に必ず採用されます。したがって、初期 (クイック) 構成を実行している場合には、アウト・オブ・バンド方式 (通常、TTY) を使用してください。

ATM ネットワークを介した接続が インバンド です。インバンド接続には、MSS サーバー の ATM ネットワーク接続機構を介した IP 接続が必要です。インバンド IP 接続を使用可能にするには、ワークステーション上で以下の接続方式のいずれかを構成する必要があります。

- クラシカル IP クライアントまたはサーバー
- IP アドレスが割り当てられている LAN エミュレーション・クライアント
- IP ホスト・サービス

注: MSS サーバー・モジュールには、クラシカル IP を実行しているワークステーションから MSS サーバー・モジュールへのインバンド・アクセスができるようにするデフォルト構成が標準装備されています。デフォルト構成を使ってネットワークに MSS サーバー・モジュールを導入する際には、細心の注意を払ってください。デフォルト構成について詳しくは、15ページの『デフォルト構成を使用する時期』を参照してください。

インバンド接続およびアウト・オブ・バンド接続については、以下の節で詳しく説明します。

TTY 接続

この方式の場合は、次の 3 種類の代替接続があります。

- EIA-232 232 サービス・ポートに接続されたヌル・モデム・ケーブルを介したローカル接続 (10ページの図1 を参照)
- EIA-232 サービス・ポートに接続されたモデムを介したリモート接続 (10ページの図2 を参照)
- PCMCIA モデム、音声/データ/FAX PCMCIA モデム、またはデータ/FAX PCMCIA モデムを介したリモート接続 (11ページの図3 を参照)

リモートおよびローカルの両方の接続を設定することができますが、どの時点でもアクティブになれるのはどちらか一方だけです。たとえば、ワークステーションが EIA-232 サービス・ポートにローカルで接続されており、音声/データ/FAX PCMCIA モデムまたは データ/FAX PCMCIA モデムを介してコールが着信した場合には、そのコールの方に優先順位が与えられます。ワークステーションは、そのコールの後で、MSS サーバー・モジュールにログインし直す必要があります。

ローカル接続でもリモート接続でも、設定するには、端末エミュレーションおよびファイル転送を可能とする通信機能を使用する必要があります。MSS サーバー・モジュールへのローカル・アクセスまたはリモート・アクセスは、接続が設定された後でも継続して使用することができます。

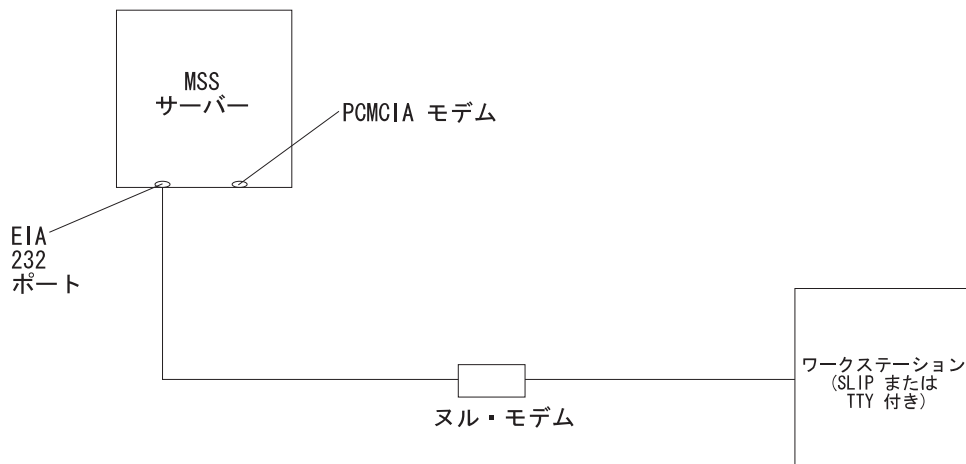


図 1. EIA-232 ポートへのローカル・シリアル接続

注: ヌル・モデム・ケーブルのピン割り当てについては、MSS サーバー 入門と計画の手引きの第 3 章を参照してください。

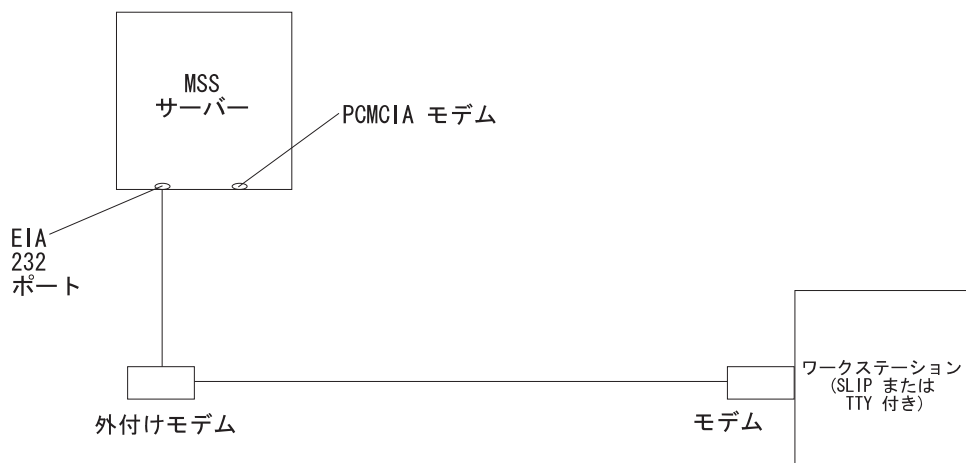


図 2. EIA-232 ポートへのリモート・シリアル接続

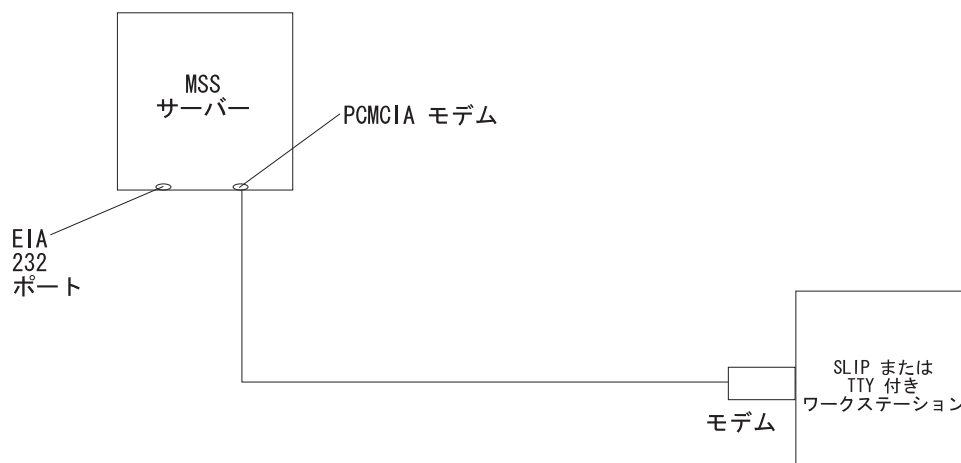


図3. PCMCIA モデム (音声/データ/FAX PCMCIA モデムまたはデータ/FAX PCMCIA モデム) へのリモート・シリアル接続

ローカルおよびリモート・コンソール・アクセス

MSS サーバー・モジュール に対して、EIA-232 サービス・ポートに接続されたヌル・モデム・ケーブルでローカルにアクセスしたり、または PCMCIA モデムを介してリモートで接続する際には、VT220 または VT100 端末エミュレーションを使用します。VT100 は F4 より上の機能キーを定義しないため、VT100 を使用する場合は、以下のように端末エミュレーションについてキーボード・マッピングを編集してください。

- キー定義 F6 については、マッピング (ESC)OU を入力します。
- キー定義 F9 に関しては、マッピング (ESC) (左大括弧)009q を入力します。

注: (ESC) は脱字記号の後に左大括弧が続いたものを表します。

シリアル・ポートについてのデフォルト設定

シリアル・ポートのデフォルト設定は、以下のものです。

速度 19.2 Kbps

パリティ

なし

データ・ビット

8

ストップ・ビット

1

MSS サーバー・モジュール オペレーショナル・コードがロードされると、シリアル・ポートの回線速度は自動的に 19.2 Kbps に設定されます。

PCMCIA モデム についてのデフォルト設定

PCMCIA モデムは、28.8-Kbps V.32 または 56-Kbps V.90 bis のどちらかのモデムです。このモデムは、自動検出のデフォルト速度でセットアップされます。

注: 本書の発行時点では、MSS サーバー・モジュールにまだ 28.8-Kbps V.32 bis モデムが標準装備されています。

PCMCIA モデム のデフォルト設定は、以下のものです。

速度 自動検出

パリティ

なし

データ・ビット

8

ストップ・ビット

1

SLIP 接続

9ページの『TTY 接続』で説明されているローカル接続またはリモート接続を通じて、TTY 接続の代わりに SLIP プロトコルを使用するように選択できます。SLIP の使用には、MSS サーバー・モジュールと接続するワークステーション上の TCP/IP が必要となります。

SLIP を構成するには、以下のアドレスを使用します。

MSS サーバー・モジュールのデフォルト SLIP アドレス

10.1.1.2

ワークステーションのデフォルト IP アドレス

10.1.1.3

SLIP の導入に関する手順については、ご使用の TCP/IP のバージョンのための資料を参照してください。

イーサネット接続

イーサネット・サービス・ポートに接続された 10BASE-T イーサネット・ケーブルを介して、Telnet を使用することができます (13ページの図4 を参照)。Telnet を使用するには、MSS サーバー・モジュールに接続するワークステーション上に TCP/IP が必要です。

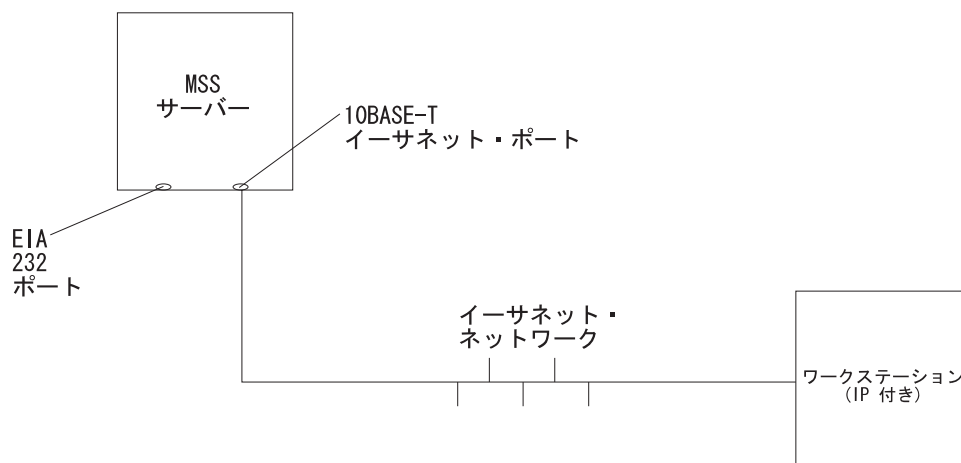


図4. イーサネット・ポートを介し、IP を使用する接続

イーサネット接続を介して Telnet を使用するには、以下のアドレスを使用してください。

MSS サーバー・モジュールのデフォルト IP アドレス

10.1.2.2

ワークステーションおよびゲートウェイのデフォルト IP アドレス

10.1.2.3

MSS サーバー・モジュールのデフォルト・サブネット・マスク

255.255.255.0

イーサネットを介した Telnet の使用方法に関する手順は、ご使用の TCP/IP のバージョンのための資料を参照してください。

上記のデフォルト IP アドレスを変更する必要がある場合には、MSS サーバー インターフェイス構成とソフトウェア使用者の手引き のファームウェアの節を参照してください。

ATM ネットワーク接続

図5 は ATM ネットワークを介するインバンド接続を示しています。この接続を使用するためには、8210-003 またはモジュールがネットワーク内で作動可能になっている必要があります。

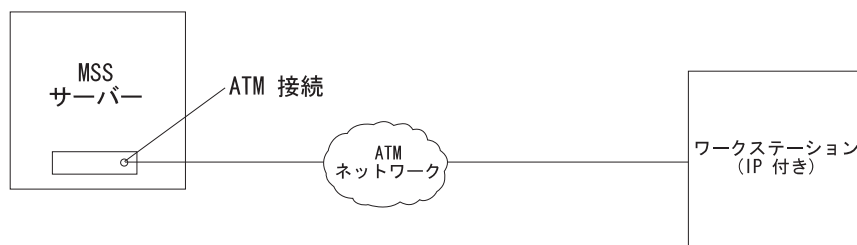


図5. ATM ネットワークを介して IP を使用する接続 (8210-003 付きで示されています)

| ATM ネットワークを介して MSS サーバー・モジュールにアクセスできるのは、そ
| のサーバーが完全に構成済みになった後か、あるいはデフォルト構成を使用した場
| 合に限られています。したがって、初期 (クイック) 構成の場合には、通常、この章の
| 冒頭で述べられている 3 種類の接続方式 (TTY、SLIP、またはイーサネット) のい
| ずれかを使用します。初期構成の詳細については、第4章 MSS サーバー・モジュールの
| 初期構成の実行 を参照してください。

初期構成を完了したら、MSS サーバー・モジュールを再ロードして、構成を活動化する
必要があります。この再ロード後、MSS サーバー・モジュールはネットワーク内で
作動可能となるので、LAN エミュレーションまたはクラシカル IP クライアントを
通じてアクセスできるようになります。

第4章 MSS サーバー・モジュールの初期構成の実行

この章では、デフォルト構成、MSS サーバー・モジュールがネットワークと通信できるようにするための初期 (クイック) 構成を実行する時期とその方法について説明し、さらに MSS サーバー・モジュールの全機能構成について解説します。

デフォルト構成を使用する時期

MSS サーバー・モジュールをリモートで構成するには、MSS サーバー・モジュールに標準装備されている省略時構成を使用します。デフォルト構成は、ユーザーがご自分のネットワークに合った構成を MSS サーバー・モジュールにダウンロードできるようにするためのものです。デフォルト構成により、Telnet を通じたコマンド行インターフェース、または Web ブラウザー・インターフェースを介して構成プログラムを使用してリモートで MSS サーバー・モジュールを構成することができます。

注:

1. デフォルト構成は、通常の操作用のものではありません。
2. MSS サーバー・モジュールをデフォルト構成を使ってネットワーク内に導入しようとしており、デフォルト構成がネットワーク内の他の装置と競合する (たとえば、別の装置の IP アドレスまたは ATM アドレスを使用するなど) 場合は、9ページの『接続方法』に記載されているアウト・オブ・バンド接続方式のいずれかを使用する必要があります。
3. デフォルト構成を使用して、MSS サーバー・モジュールを一度に 1 つずつ接続して構成します。デフォルト構成を使用して、複数の MSS サーバー・モジュールを同時にネットワークに接続した場合には、競合が発生します。

接続は、適切な ELAN に接続された LAN スイッチを通じて、SLIP 接続を使用するシリアル・ポートを通じて、固有な ATM 接続機構を介したクラシカル IP を使用して、あるいは、接続後にはイーサネット・アダプターを使用して達成できます。

デフォルト構成のパラメーター

以下の節では、デフォルト構成のパラメーターをリストしています。

LECS - 一般パラメーター

パラメーター	値
ATM Device	0
ESI	4000 8210 0001
Selector	00

LECS - 割り当てポリシー

パラメーター	値
Priority	10 または 20
Policy (優先順位 10)	ELAN 名で

Policy (優先順位 20)

LAN タイプで

信号プロトコル

パラメーター 値

ATM 自動検出

IP 構成 - クラシカル IP

パラメーター 値

Interface 0

Type ATM

Slot 1

Port 1

IP Address 10.1.0.1

IP Subnet Mask Address
255.255.255.0

ARP Server 使用可能

Refresh 5 分

Auto-refresh 使用可能

ESI 4000 8210 0001

Selector 00

Maximum SDU Size
9188

注: パラメーター ESI および selector は、デフォルト MSS サーバー・モジュール構成で使用可能になっているクラシカル IP サーバーとクライアントの両方に対するものです。これらの値は、MSS サーバー・モジュールをその ARP サーバーとして使用するようクラシカル IP ワークステーションを構成する場合に必要です。

エミュレート LAN 構成 - トークンリング

パラメーター 値

Name TRelan1

Device 0

LES/BUS ESI 4000 8210 0001

LES/BUS Selector
04

Policies (名前)
TRelan1

Policies (タイプ)
トークンリング

LEC インターフェース - トークンリング

パラメーター 値

Interface 1

MAC Address

4000 8210 0001

Name TRelan1

Type トークンリング

Device 0

ESI 4000 8210 0001

Selector 02

IP 構成 - トークンリング LAN エミュレーション

パラメーター 値

Interface 1

LEC TRelan1

IP Address 10.1.1.1

IP Subnet Mask

255.255.255.0

エミュレート LAN 構成 - イーサネット

パラメーター 値

Name ETHelan1

Device 0

LES/BUS ESI 4000 8210 0002

LES/BUS Selector

04

Policies (名前)

ETHelan1

Policies (タイプ)

イーサネット

LEC インターフェース - イーサネット

パラメーター 値

Interface 2

MAC Address

4000 8210 0002

Name ETHelan1

Type イーサネット

Device 0

ESI 4000 8210 0002
Selector 02

IP 構成 - イーサネット LAN エミュレーション

パラメーター 値
Interface 2
LEC ETHelan1
IP Address 10.1.2.1
IP Subnet Mask
255.255.255.0

SNMP コミュニティー

パラメーター 値
Name パブリック
Access Type 読み取り/書き込み

初期構成の実行時期

新しい MSS サーバー・モジュールがあるが、デフォルト構成を使用したくない場合、MSS サーバー・モジュールの構成を消去してしまった場合、あるいは構成を消去するような問題が発生している場合には、19ページの『初期 (クイック) 構成の実行』に記載されているステップを実行しないと、MSS サーバー・モジュールはネットワーク内で作動できません。

現在構成 (たとえば、デフォルト構成) をもっている場合には、以下のステップを実行すると、その構成を消去できます。

1. OPCON 用のプロンプト (アスタリスク (*)) から、**talk 6** と入力します。プロンプト Config> が表示されます。
2. **boot** と入力します。プロンプト Boot config> が表示されます。
3. 以下のコマンドを、この順番で入力します。
 - a. **clear all**
 - b. **clear device**
 - c. **exit**
 - d. **write**
4. MSS サーバー・モジュールをリブートします。

注: クイック構成プログラムでは、多数のデフォルトを想定しています。その中には、お客様の導入には適していないものもあります。したがって、以下のステップを行うようお勧めします。

1. クイック構成を使用して、部分的な構成だけを作成します。
2. **restart** コマンドを入力して、8210-003 を再始動します。
3. その他の構成方式 (コマンド行インターフェース、構成プログラム、または Web ブラウザー) のいずれかを使用して、TCP/IP ステーションから 8210-003 を完全に構成します。

初期 (クイック) 構成の実行

クイック構成プロセスを開始する前に、以下の注をお読みください。

- 大括弧 [] に囲まれている情報がデフォルトです。デフォルトを使用するためには、**Enter** を押します。デフォルト以外の値を使用するには、小括弧で囲まれている値の中から選択します。大括弧で囲まれている値がない場合には、デフォルト値はないので、ご自分で値を入力する必要があります。
- Config> または Config (only)> プロンプトからクイック構成を開始または再開するには、**qc** と入力して、**Enter** を押します。
- 現在のクイック構成セクションの始めに随時戻するためには、**r** と入力します。たとえば、ブリッジ構成セクションにいる場合には、**r** と入力してから **Enter** を押して、そのセクションの始めに戻ります。
- クイック構成を終了する場合には、**q** と入力して、**Enter** を押します。Config> プロンプトが表示されます。**qc** と入力してから、**Enter** を押します。
- 構成を完了したら、その構成が有効になるように MSS サーバー・モジュールを再始動する必要があります。そのオプションは、クイック構成プログラムの終了時に与えられます。

クイック構成プロセスを開始するには、次のように行います。

1. 第3章 MSS サーバー・モジュールへのアクセス方法 に記載されているように MSS サーバー・モジュールにアクセスします。MSS サーバー・モジュールは、オペレーター・コンソール (OPCON) プロンプト (*) で応答します。
2. MSS サーバー・モジュールのインターフェース番号を設定します。
 - * プロンプトに **talk 6** と入力します。
 - Config> プロンプトに **add dev atm** と入力します。

```
* talk 6
Config>
Config (only)> add dev atm
Device Slot #(1-2) [1]?
Adding ATM device in slot 1 port 1 as interface #0
Use "net 0" to configure ATM parameters
```

3. **net** コマンドを入力して、終端システム識別子 (ESI) アドレスを構成します。ESI アドレスは、ネットワーク管理者から提供されたものでなければなりません。

```
Config (only)> net 0
ATM user configuration
ATM Config > int
ATM interface configuration
ATM Interface Config> add esi 400082100001
ATM Interface Config> exit
ATM Config> exit
Config (only)>
```

4. Config> プロンプトから **qconfig** または単純に **qc** と入力して、インターフェースおよびブリッジ・プロトコルとルーティング・プロトコルを構成するためにクイック構成プログラムを開始します。

```
Config> qc
```

クイック構成プログラムにより、一連のパネルが表示されます。

5. **Configure LAN Emulation (LAN エミュレーションの構成):**

以下のように、使用する構成プログラムプラットフォームにより応答が異なります。

- a. LAN エミュレーションを使用して MSS サーバー・モジュールに到達する場合は、「Configure LAN Emulation (LAN エミュレーションの構成)」という質問に対して **Yes** と答え、LAN エミュレーション情報を提供し、**Enter** を押してデフォルトを受け入れます。
 - b. クラシカル IP を使用して MSS サーバー・モジュールに到達する場合は、「Configure LAN Emulation (LAN エミュレーションの構成)」という質問に対して **No** と答えます。
6. **Configure Bridging (ブリッジの構成):**
「Configure Bridging (ブリッジの構成)」という質問に対して **No** と答えます。
7. **Configure Protocols (プロトコルの構成):**
「Configure Protocols (プロトコルの構成)」という質問に対して **Yes** と答えます。
8. **Configure IP (IP の構成):**
- a. 「Configure IP (IP の構成)」という質問に対して **Yes** と応答します。
 - b. 構成プラットフォームがクラシカル IP を使用して、MSS サーバー・モジュールに到達する場合は、インターフェース 0 について「Configure IP on this interface (このインターフェース上での IP の構成)」という質問に対して **Yes** と答えてから、*IP Address* プロンプトに IP アドレスを入力し、*Address Mask* プロンプトに IP マスクを入力して、ARP サーバーの質問に適当に答えます。
 - c. 構成プログラム・プラットフォームが LAN エミュレーションを使用して MSS サーバー・モジュールに到達する場合は、構成プログラムと通信する任意の LAN エミュレーション・インターフェースについての「Configure IP on this interface (このインターフェース上での IP の構成)」という質問に対して **Yes** と答え、構成プログラムと通信しない任意の LAN エミュレーション・インターフェースについて「Configure IP on this interface」という質問に **No** と答え、*IP Address* プロンプトに IP アドレスを入力し、*Address Mask* プロンプトに IP マスクを入力します。
 - d. 「Enable Dynamic Routing (動的ルーティングを使用可能にする)」という質問に **No** と答えます。
 - e. 「Define Community (コミュニティの定義)」という質問に **Yes** と答えます。
 - f. *read_write_trap* の質問には **Yes** と答えます。
 - g. 構成プログラムが使用するコミュニティ名を入力します。
 - h. 「Save this configuration (この構成を保管)」という質問に対して **Yes** と答えます。
9. **Configure IPX (IPX の構成)**
「Configure IPX (IPX の構成)」という質問に対して **No** と答えます。
10. **Write Configuration (構成の書き込み):**
「Write Configuration (構成の書き込み)」という質問に対して **Yes** と答えます。
11. **Restart the MSS サーバー・モジュール (MSS サーバー・モジュールの再始動):**
「Restart the MSS サーバー・モジュール (MSS サーバー・モジュールの再始動)」という質問に対して **Yes** と答えます。
12. 構成を保管します。

重要: MSS サーバー・モジュールの構成が済んで、作動可能になったら、必ず、アクティブ構成ファイルのバックアップを取ってください。このファイルを保持しておく、アクティブ構成が破壊された場合に、ネットワーク上で MSS サーバー・モジュールを再設定することができます。

アクティブ構成ファイルのバックアップは、そのファイルを取り出し、ワークステーション内に格納すると行なわれます。

13. 初期構成が完了したことをネットワーク管理者に通知します。

全機能構成

今行った初期構成手順により、ネットワークを介して MSS サーバー・モジュールにアクセスできるようになります。これで、ネットワーク管理者は、以下のどの方式を使用しても、モジュールの全機能を実行できます。

- 構成プログラム
- Web ブラウザー HTML インターフェース
- コマンド行インターフェース (OPCON)

構成プログラムは、以下の理由により、望ましい構成方式です。

- 該当する MSS サーバー・モジュールにアップロードするために、多数の構成ファイルのコピーをサーバー上で保持できるようにする。
- 構成パラメーターを動的に変更しない。このフィーチャーは、MSS サーバー・モジュール構成への変更を制御する上で役立ちます
- 他の方式よりも、構成パラメーターの入力妥当性検査および相互検査をたくさん実行する。

コマンド行インターフェースと Web ブラウザー・インターフェースは、特定のパラメーターを動的に変更します。これらのインターフェースが作成するバイナリー・ファイルは、ワークステーションではなく、MSS サーバー・モジュール上に保管されます。こういった特性から、これらのインターフェースは、MSS サーバー・モジュールの構成を管理するのにさらに使いにくいものとなっています。ただし、これらのインターフェースを使用して MSS サーバー・モジュールの動作を監視することができますが、構成プログラムではできません。これらのインターフェースは、動的に変更できるパラメーターのいずれかを変更したい場合にも役立ちます。

構成の完了に必要な情報については、構成プログラム使用者の手引き、MSS サーバーインターフェース構成とソフトウェア使用者の手引き、および MSS プロトコルとフィーチャーの構成を参照してください。

付録A. 共通作業

この付録では、共通する MSS サーバーの導入、操作、および保守作業を扱う一連の質問と答を記載し、それらの作業を実行する際のヒントが記載されている箇所を示します。

コマンド行インターフェース

質問: コマンド行インターフェースにアクセスする方法 (操作コード) は?

答: ファームウェア・メニュー・システム (システム管理保守パネル) から、**F9** を押します。* プロンプトがシステム・ブートの後で表示されます。

コマンド行インターフェースについては、*MSS サーバー インターフェース構成およびソフトウェア使用者の手引き* で説明しています。

アクティブなハードウェア・インターフェースのリストの表示

質問: アクティブなハードウェア・インターフェースのリストの表示方法は?

答:

1. コマンド行インターフェース (* プロンプト) にアクセスします。
2. **talk 6** と入力し、**Enter** を 2 回押して、**Config>** プロンプトを表示します。
3. **list dev** と入力します。
4. **Ctrl-p** を押して、コマンド行インターフェースに戻ります。

インターフェースの作動状態の表示

質問: インターフェースの状態 (たとえば、起動している、起動していない、使用不可である) の表示方法は?

答:

1. コマンド行インターフェース (* プロンプト) にアクセスします。
2. **talk 5** と入力し、**Enter** を 2 回押して、**+** (監視) プロンプトを表示します。
3. **configuration** と入力します。
4. **Ctrl-p** を押して、コマンド行インターフェースに戻ります。

接続の検査

質問: 与えられた IP アドレスがオンラインであるかどうかの検査方法は?

答:

1. コマンド行インターフェース (* プロンプト) にアクセスします。
2. **talk 5** と入力し、**Enter** を 2 回押して、**+** プロンプトを表示します。
3. **protocol** と入力します。

4. **ip** と入力します。プロンプトが IP> に変わります。
5. **ping IP アドレス値** を入力します。 **Enter** を押して、ping プロセスが停止します。
6. IP> プロンプトに **exit** と入力します。プロンプトが + に変わります。
7. **Ctrl-p** を押して、コマンド行インターフェースに戻ります。

重要ソフトウェア・データの表示

質問: 重要ソフトウェア・データの表示方法は?

答:

1. * プロンプトで **talk 6** と入力し、 **Enter** を 2 回押します。 Config> プロンプトが表示されます。
2. **boot** と入力します。
3. **describe** と入力します。重要ソフトウェア・データが表示されます。
4. **Ctrl-p** を押して、コマンド行インターフェースに戻ります。

重要ハードウェア・データの表示

質問: 重要ハードウェア・データの表示方法は?

答:

1. ファームウェア・メインメニューにアクセスします。ブート中に、Prematurely terminate boot sequence (ブート・シーケンスを完了しないうちに終了) プロンプトで **F1** を押します。
2. **Utilities (ユーティリティー)** を選択します。
3. **View or Set Vital Product Data (重要プロダクト・データの表示または設定)** を選択します。
4. **Hardware Vital Product Data (ハードウェア重要プロダクト・データ)** を選択します。重要ハードウェア・データが表示されます。
5. ファームウェア・メインメニューに戻ります。
6. **F9** を押して、オペレーティング・ソフトウェアをロードします。

クイック構成の実行

質問: クイック構成プログラムの実行方法は?

答: Config (only) プロンプトで、 **qc** を入力します。

ATM ポートの使用不可

質問: 構成済み ATM ポートを使用不可にする方法は?

答:

1. コマンド行インターフェース (* プロンプト) にアクセスします。
2. **talk 6** と入力し、 **Enter** を 2 回押して、 Config> プロンプトを表示します。

3. **list device** と入力します。
4. 使用不可にしたいポートのインターフェース番号をメモします。
5. **disable interface** インターフェース番号 を入力します。
6. **write** と入力し、変更内容を保管します。
7. MSS サーバーをリブートして、構成変更を有効にします。

この手順の詳細については、*MSS* サーバー インターフェース構成およびソフトウェア使用者の手引き を参照してください。

ATM ポートの使用可能化

質問: **disable interface** コマンドを使って使用不可になっている (24ページの『ATM ポートの使用不可』で) 構成済み ATM ポートを使用可能にする方法は?

答:

1. コマンド行インターフェース (* プロンプト) にアクセスします。
2. **talk 6** と入力し、**Enter** を 2 回押して、**Config>** プロンプトを表示します。
3. **list device** と入力します。
4. 使用可能にしたいポートのインターフェース番号をメモします。
5. **enable interface** インターフェース番号 を入力します。
6. **write** と入力して、変更内容を保管します。
7. MSS サーバーをリブートして、構成変更を有効にします。

この手順の詳細については、*MSS* サーバー インターフェース構成およびソフトウェア使用者の手引き を参照してください。

ATM ポートを使用不可にしてトラフィックを中断

質問: 構成済み ATM ポートを使用不可にしてトラフィックを中断する方法は?

答:

1. コマンド行インターフェース (* プロンプト) にアクセスします。
2. **talk 5** と入力し、**Enter** を 2 回押して、**+** プロンプトを表示します。
3. **configuration** と入力します。
4. 使用不可にしたいポートのインターフェース番号をメモしておきます。
5. **disable** インターフェース番号 を入力します。

ATM ポートを使用可能にしてトラフィックを再開

質問: 構成済み ATM ポート (『ATM ポートを使用不可にしてトラフィックを中断』で **talk 5 disable** コマンドを使用して使用不可にされた) を使用可能にしてトラフィックを再開する方法は?

答:

1. コマンド行インターフェース (* プロンプト) にアクセスします。
2. **talk 5** と入力し、**Enter** を 2 回押して、**+** プロンプトを表示します。

3. **configuration** と入力します。
4. 使用可能にしたいポートのインターフェース番号をメモします。
5. **test** インターフェース番号 を入力します。

注: 使用不可として構成されている (**talk 6** の節で説明してあります) インターフェースを **test** コマンドを使用して使用可能にした場合、次にMSS サーバー をリブートすると、インターフェースは再度使用不可になります。したがって、次にリブートが行われたときにインターフェースが使用可能になるようにするには、 **talk 6 enable interface** コマンドを使用してください。

この手順の詳細については、*MSS サーバー インターフェース構成およびソフトウェア使用者の手引き* を参照してください。

最新の MSS サーバー情報

質問: MSS サーバーに関する最新情報の検索方法は?

答: Web ブラウザーで次のアドレスにアクセスします。

<http://www.networking.ibm.com/820/820prod.html>

付録B. 特記事項と商標

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

本書のオンライン・バージョンのご使用条件

弊社は、お客様に対して以下のことを許諾します。

本媒体に収められた文書（IBM プログラムを除く。以下、「資料」という）をお客様の社内使用のために複製し、改変し、印刷することができます。ただし、資料のすべての複製物には、全文複製か部分複製かを問わず、著作権表示、すべての注意書きのほか必要な表示をそのまま複製するものとします。

上記の条件に違反があった場合は、本使用権は終了するものとします。この場合、お客様は、ただちに複製物のすべてを破棄し、本媒体を弊社に返却するものとします。

情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

電波障害自主規制 届出装置の記述

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

商標

以下の用語は、米国またはその他の国における IBM Corporation の商標です。

IBM	Nways	PowerPC (ロゴ)
Library Reader	OS/2	PS/2

その他の会社名、製品名、およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。

付録C. 安全に関する注意事項

安全上の注意

危険

導入作業を開始する前に、安全に関する小冊子SD21-0030 の「最初にお読みください」(Read This First)の項をお読みください。この小冊子は、電気機器の安全な配線と接続の手順について説明しています。

LED およびレーザーのステートメント

クラス 1 LED ステートメント

クラス 1 LED 製品

IEC 825-1:1993 に準拠

クラス 1 レーザー・ステートメント

クラス 1 レーザー製品

IEC 825-1:1993 に準拠

リチウム電池ステートメント

MSS サーバー・プロセッサ・カードには、交換不能な組み込みリチウム電池を備えるクロック・モジュールが組み込まれています。このモジュールは、地域の条例に従って廃棄してください。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- アウトバンド・アクセス 9
- アクセス、MSS サーバー・モジュール
 - 概説 9
 - バンド外 9
 - バンド内 9
 - 物理接続 13
 - リモート接続 13
- アドレス
 - イーサネット 12, 19
 - ATM 19
 - SLIP 12
- 安全上の注意 29
- イーサネット
 - アドレス 12, 19
 - 10BASE-T ケーブル 12
- インストール
 - 概説 vii
 - CD-ROM ix
 - MSS サーバー・モジュール 1
 - PCMCIA 装置 4
- インバンド・アクセス 9
- ウェブ・ブラウザ (構成メソッド) 21

[カ行]

- 管理、構成問題 20, 21
- 共通作業 23
- クイック構成
 - 書き込み構成 20
 - ブリッジング 20
 - プロトコル構成 20
- IP 20
- IPX 20
- LAN エミュレーション 19
- 構成
 - 概説 vii
 - 書き込み構成 20
 - 初期
 - 問題 20
 - MSS サーバー・モジュール の設定 19
 - 全部
 - 管理問題 21
 - MSS サーバー・モジュール の設定 21

- 構成 (続き)
 - バックアップ 20, 21
 - 問題 20, 21
 - IP 20
 - IPX 20
 - SLIP 12
- 構成プログラム (構成メソッド) 21
- コマンド行インターフェース (構成メソッド) 21
- コンソール・アクセス
 - リモート 11
 - ローカル 11

[サ行]

- 再始動、MSS サーバー・モジュール 18, 19, 20
- 資料
 - Library Reader ix
- スロット・エラー LED 6
- 接続、MSS サーバー への 9
- 接続方式 9
 - ATM ネットワーク 13
 - SLIP 12
 - TTY 9
- 設定
 - 構成 19
 - MSS サーバー・モジュール 19

[タ行]

- デフォルト構成 6, 15
- デフォルト設定
 - シリアル・ポート 11
 - データ/FAX PCMCIA モデム 11
 - MSS サーバー 15
- トラフィック LED 6

[ハ行]

- ハードウェア、接続方式 9
- バックアップ、構成 20, 21
- パラメーター、デフォルト構成 15
- ファックス、デフォルト設定 11
- 物理アクセス、MSS サーバー・モジュール 13
- ブリッジング
 - 構成、一般 19
 - 構成、クイック構成 20
- プロトコル
 - クイック構成 20
 - 構成 20
- 変更点、旧版以降の x

ポート、デフォルト設定 11
ポート活動 LED 6
ポート状況 LED 6

[マ行]

モジュール状況 LED 6
モデム 11
問題
 構成 20, 21
 LED 6, 7
問題解決 7

[ラ行]

リセット LED 6
リモート接続 9, 11, 13
リンク LED 6
ローカル接続 9, 11

A

ATM バックプレーン
 使用可能 5
 接続 5
ATM (非同期トランスポート・プロトコル)
 アドレス 19

C

CD-ROM
 インストール ix
 Library Reader ix

I

IP (インターネット・プロトコル)、構成 20
IPX (インターネット・パッケージ交換)、構成 20

L

LAN エミュレーション
 構成、クイック構成 19
 デフォルト構成 15

LED

警告 6
トラフィック 6
ポート活動 6
ポート状況 6
モジュール状況 6
リセット 6
リンク 6

LED (続き)
 OK 6

M

MSS サーバー ライブラリー viii
MSS サーバー・モジュール
 アクセス
 バンド外 9
 バンド内 9
 インストール 1
 資料 3
 設定 19
 ハードウェア 3
 問題解決 7

O

OK LED 6
OPCON (オペレーター・コンソール・プログラム) 21

P

PCMCIA モデム 11

S

SLIP
 アドレス 12
 構成 12

T

TTY (テレタイプ) 接続 9

W

Web サイト、MSS サーバー 情報 ix



Printed in Japan

GA88-6443-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12